

東大キャンパス地下めぐり II

埋蔵文化財調査室

淡

青8号において江戸時代以降の発掘調査成果として、本郷キャンパスの調査地点数ヶ所を紹介した。工事堀の向こう側で、私達が独占している地下探索の雰囲気は少しは味わっていたただけであろうか。

今号では江戸時代以降の調査成果として前号から漏れてしまった地点を含めて、江戸時代以前の調査成果も紹介したい。なお今回は本郷キャンパスのみであったが、今回は本郷以外の東大施設も紹介する都合上、地点名の頭に所在地を書くようにした。

江戸時代以降 (その二)

遺跡地図 23

文京区本郷 医学部附属病院棟建設地点 (現・入院棟)

東大病院地区は絵図面から加賀藩邸、大聖寺藩邸、富山藩邸、越後高田藩邸、講安寺 (講安寺は本郷キャンパス南東部に隣接して現存) があつた場所として知られていた。こも加賀藩の上屋敷が本郷の藩邸に代わる天和三年 (一六八三) から大聖寺藩邸内にあたり、それ以前は加賀藩邸の飛び地として黒多門邸と呼ばれた建物があつた場所であると文献史料には記されていた。黒多門邸は人質として差し出した重臣の子弟を藩邸内で監督する (証人制度) ための屋敷であり、その制度が廃止になる寛文五年 (一六六五) まで利用されていた屋敷である。それ以降、天和二年 (一六八二) の火災 (一八百屋お七の火事) で藩邸が全焼するまでは、足軽、間番などの身分の低い家臣が住んだとされる。発掘調査の結果、火事で焼失した長屋群 (写真1) が見つかかり、出土遺物や土地利用の変遷などから、天和二年 (一六八二) の火災で焼失した長屋群であることが明らかとなり、前述の足軽・間番などが住んでいた長屋ではないかと考えている。

遺跡地図 14

文京区本郷 工学部十四号館地点 (現・工学部十四号館)

ここは、絵図面に加賀藩邸西側へ食い込む形で描かれている幕府先手鉄砲組の与力、同心組屋敷の一部 (御先手組) に当たる。発掘調査した結果、地下室、井戸、ごみ穴などが何度も造り替えられている様子を見ることができた (写真2)。出土したものは陶磁器類のほか、大名藩邸の調査地点では余り見られないフイゴの羽口、鉄くず

など、金属の製造にともなう物 (写真3) や土人形 (写真4) などが数多く含まれていた。本郷キャンパス内では大名藩邸以外の調査は余り多くないが、与力、同心などの下級武士の生活や屋敷内の土地利用を考える上で、良好な資料が得られた地点である。

遺跡地図 60

文京区本郷 病院基幹整備地点 (現・入院棟前付近)

淡青8号でも紹介したように、東大病院地区は講安寺寺域が部含まれる事がわかってきたが、ここはその中でも墓域であった事が発掘調査から明らかになった。木棺、甕棺 (写真5)、蔵骨器などの様々な埋葬施設が幾重にも重なった状態で見つかったことから、一つの場所に何回も墓を造り続けている様子を伺い知ることができた。なおこの墓域には、加賀藩前田家や越後高田藩榊原家の藩士なども葬られていることが文献調査などから明らかになっている。

三浦市

理学部附属臨海実験所 (新井城跡) 新研究棟建設地点 (現・新実験研究棟)

当地点は、赤星直忠氏が『三浦半島城郭史』の中で「新井城の居館のあつた場所で御殿跡と伝えられている」と記述した地区に当たる。新井城は、室町時代の武將三浦氏の居城のひとつであり、一五六年に小田原の北条氏に攻められ落城した。発掘調査の結果、大型の掘立柱建物跡や落城の際に埋められたと思われる人骨が多く見つかった (写真6)。

遺跡地図 19

文京区本郷 医学部附属病院看護婦宿舎地点 (現・看護婦宿舎)

ここは寛永十六年 (一六三九) 以降は富山藩の上屋敷、それ以前は加賀藩の下屋敷があつた場所、発掘調査ではその頃の生活の痕跡も数多く見つかった。そして更に江戸時代の生活面の下から古墳時代 (四〜七世紀) の住居址が六基見つかった。調査地点の西側に位置する住居址は江戸時代の開発によって大きく破壊され、かろうじて痕跡を残す程度であったが、東側の住居跡は比較的良好的な状態で確認することができた (写真7)。住居からは調理、貯蔵、祭祀、装飾などに用いた土器

(写真8) や勾玉などが出土した。

遺跡地図 61

文京区弥生 武田先端ビル地点 (現・建築中)

当地点は、「弥生時代」の名称の由来となった壺形土器が発見された向ヶ丘弥生町の一角に位置している。発掘調査では弥生時代の方形周溝墓が基壇つき (写真9)、そこからは土器 (写真10)、ガラス小玉、管玉 (写真11) などの副葬品が出土した。なお見つかった方形周溝墓は剥ぎ取り保存している。

目黒区駒場

数理学研究棟地点 (現・数理学研究科棟)

駒場1キャンパス周辺は、以前から東京都遺跡地図に東大遺跡として範囲が不確定ながらも縄文時代中期、晩期の周知の埋蔵文化財包蔵地として認められている場所であった。この場所の発掘調査では、縄文時代早期の屋外炉 (写真12) が十三群見つかった。

三鷹市

国際交流会館 (長島遺跡) 地点 (現・三鷹国際交流会館)

近くを流れる仙川沿いに生活していた人々が、後期旧石器時代 (約二万数千年前) に狩猟道具として使用していたと思われる石器 (石やり、ナイフ、皮なめしなど) が出土した (写真13)。

淡青8・9号の二回にわたり埋蔵文化財調査室が現在まで行ってきた調査と、その成果を簡単に紹介してきたが、本誌面を執筆している最中も本郷キャンパス内で三箇所の発掘調査が行われ、様々なことが明らかになってきている。今後も東大のキャンパス整備に伴いあちこちで調査が行われると思われるが、これまでの成果を踏まえながら様々な時代の人々の生活の営みを引き続き探っていきたいと思っている。

紙面の都合上、紹介する地点も成果も非常に限られたものとなってしまった事はお許し願いたい。なお、本誌面を讀まれて更に詳しくお知りになりたいと思われた方は、二〇〇〇年に東大出版会から刊行された『加賀殿再訪 東京大学コレクションX』を参考にしていただければ幸いです。



写真4 文京区本郷
工学部14号館地点出土 土人形



写真3 文京区本郷
工学部14号館地点出土
フイコの羽口と鉄くず



遺跡地図 14
写真2 文京区本郷
工学部14号館地点 調査区域全景



遺跡地図 23
写真1 文京区本郷
附属病院病棟地点検出
「八百屋お七の火事」で消失した長屋



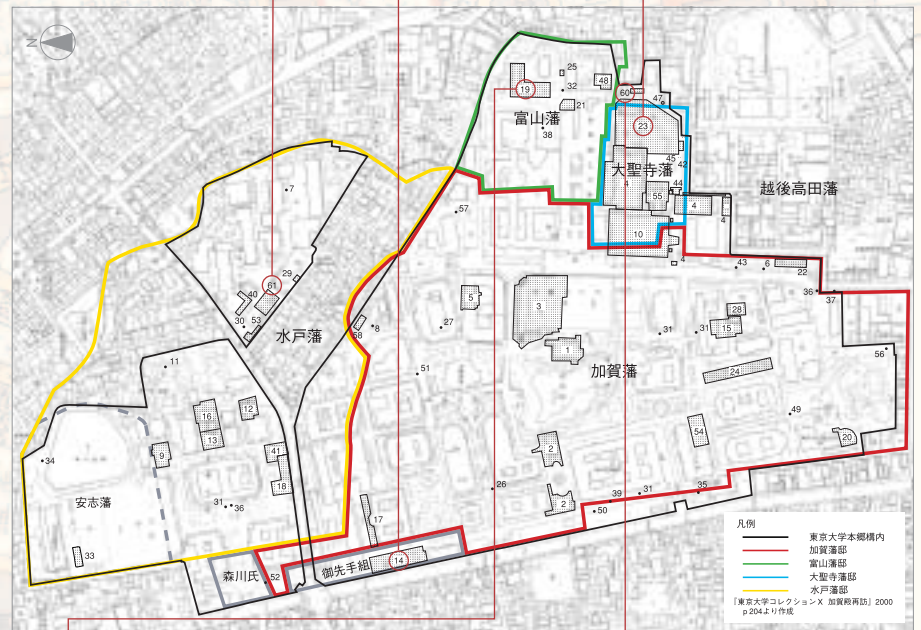
遺跡地図 61
写真9 文京区弥生
武田先端知ビル地点検出 方形周溝墓



写真10 文京区弥生
周溝出土 弥生式土器



写真11 文京区弥生
主体部出土 ガラス小玉、管玉



東京大学本郷構内の遺跡地図

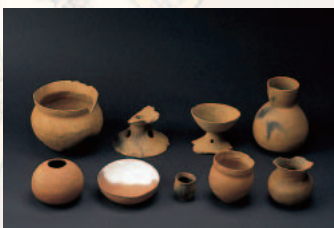


写真8 文京区本郷
医学部附属病院看護婦宿舍地点出土 土器



遺跡地図 19
写真7 文京区本郷
医学部附属病院看護婦宿舍地点検出 住居跡



遺跡地図 60
写真5 文京区本郷
病院基幹整備地点出土 壺棺内の埋葬状況



三鷹市
写真13 三鷹市
国際交流会館(長島遺跡)出土 石器



目黒区駒場
写真12 目黒区駒場
数理学研究棟地点(東京大学駒場キャンパス遺跡)出土 炉穴



三浦市
写真6 三浦市
理学部附属臨海実験所(新井城跡)出土 人骨